

【知夫里島島留学創設時からの想い】

知夫村では、2017年度より知夫里島島留学を実施しています。小学6年生～中学3年生(中学3年生は継続のみ)の児童・生徒を受け入れ、知夫村にきた島留学生は、はぐくみ寮で生活をし、知夫村立知夫小中学校に登校します。

人と人とのつながりが濃い知夫里島で、知夫だからこそ身につく力を育んでいきます。これから先、多様な価値観により複雑化していく社会の中で、生き方や働き方に、大きな変化が訪れることが想像されます。しかし、島の暮らしで身につく力は、どのような環境・場面においても活かすことができる力です。島の環境を活かし、生活や体験をする中で、様々な挑戦や失敗を繰り返し、成長や変化をしてもらいたいと思います。

知夫里島島留学は、児童・生徒の更生プログラムではありません。島留学生に対しても、特別な扱いや過度な対応はしません。周りの大人は、島の子と同じように接します。また、「親に勧められたから」という理由ではなく、島や学校、寮の環境を活かし「自ら挑戦したい」「成長したい」という意欲ある児童・生徒を応援しています。

島留学のVISION

島が元気になる

愛し、愛され、人生を楽しめる人をはぐくむ

目的地（私たちが見たい光景）

600人の家族

嬉しいことがあった時、
伝えたい人の顔が思い浮かぶか？

島留学生生活を通して、自分が心から幸せを願える家族のような人（**結縁関係**）をつくる。
その人の幸せが自分の幸せのように感じられることで、人のために動けるようになる。

【卒業時】互いを想い、別れを惜しむ

「この子が来てくれてよかった。」

「ここに來れてよかった。」

「もっと一緒にいたいな。」

「離れたくないな。寂しいな。」

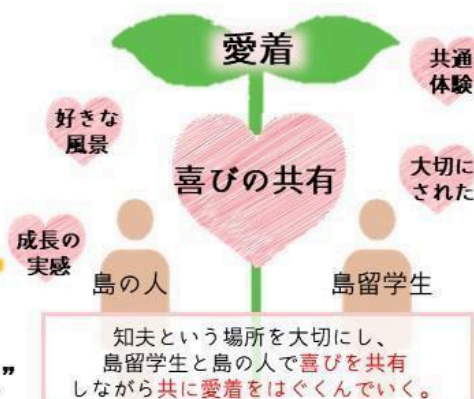
「どんな時も応援してるよ。」

「もっと頑張りたいな。」

【卒業後】再び訪れたくなる

結縁…友達以上家族未満の関係

結縁関係を結ぶために欠かせないもの



“どこにいても、知夫を想う大人”

～愛着をはぐくむもの～
喜びの共有

島留学のこと、はぐくみ寮のこと、寮生のこと喜んでくれる人が何人いるか？
どのぐらい深い喜びをともに分かち合えるか？

小さな喜びを近くにいる人と分かち合うこと
から始めて、喜びの輪を広げていく。

たくさんの人と大きな喜びを分かち合おう。

知夫という場所で生まれた“縁”

知夫という場所、そこで暮らす人を大切にする。

知夫里島島留学にきた島留学生がこの島を離れる際に、同級生や異学年の友達だけでなく、スタッフや学校の先生や地域の多くの方々に「行ってらっしゃい！」と見送られ船に乗って離れる。そして、島留学生も島の人たちに「行ってきます！」と言って離れていく。その様に、島留学生と島の人々が惜しみ惜しまれながら別れるような“未来”を実現したいと思っています。ここに来た島留学生が、この島の一員になり、また島の人たちもそれを受け入れ、まるで“600人の家族”のようになっていくことを目指しています。

島留学生が寮生活を基盤とし、「知夫里島を舞台に、自分らしく楽しむ」ことを通して、島のあらゆる人たちを巻き込み、巻き込まれながら、島留学生自身も、多くの島の人たちも、共に元気になっていくことで“600人の家族”を目指していきます。